

社会科（地理的分野）学習指導案

日時：2024年10月26日

対象：第1学年梅組 35名

授業者：渡邊 智紀

1. 単元名 「世界の諸地域」 (4)アジア州～各地の都市問題の解決に向けて～

2. 単元開発にあたって

(1) 研究主題との関わり

研究主題「試行錯誤と創意工夫のある『つくる学び』をつくる～創造的思考力を育てる
学校づくりへの挑戦」

※今年度は特に「創造的思考の習慣」の育成を目指した研究授業を行う。

2022年度の本校社会科部の公開研究会紀要では、「公民としての資質・能力の基礎の育成を目指す教科である社会科における『創造的活動』とは、第一義的には『構想』の学習のように、生徒一人一人が社会的事象や社会的課題を自分事としてとらえ、生徒同士の協働の中で課題のよりよい解決方法や今ある仕組みのよりよい在り方を考察・構想していく活動、学習を通して社会の将来像を予測し、それをよりよい姿に近づけるための手段や方法を考察・構想する活動、すなわち『問題解決』が中心」と述べた。また、「多面的・多角的に考察しアイデアを出しあう活動、一度生み出された解決策を評価し、見直し改善していく活動、表現手段や方法をどのようにするか選択したうえで表現する活動」も、社会科の授業における創造的活動であると考えた。

これらの活動を、本校の「創造的思考のプロセスモデル」の各場面にあてはめて分析すると、情報収集の方法を検討したり集めた情報を取捨選択したりする場面、情報どうしを関係づけたり総合したりする場面、仲間と解決策について議論し意見形成していく場面、他者の意見を踏まえ自らの提案を批判的に再検討する場面などで試行錯誤が生まれ、生徒の創造的思考が発揮されていると考えられる。

今年度社会科部では生徒の創造的思考が発揮されている場面の分析を基に、社会科の学習を通して引き出すことができる「創造的思考の習慣」について考察し、次の3つを見出した。本公開授業では、これら3つの習慣を引き出せるような単元構成や授業展開を工夫した授業設計を試みたい。

①疑問をもったことについて予測したり、こうなるとよいのではないかと想像したり、分からないことを自ら調べて明らかにしようとする習慣

②集めた情報を取捨選択したり、情報を分析して論理的に関係づけたりまとめたり構想しようとする習慣

③自他の意見や今あるものを批判的に見て、よりよいものを目指そうとすること。その際、創造的思考の土台として「個人の尊重」（基本的人権の尊重）や「持続可能性」などの概念を常に意識する習慣

(2) 教材の位置づけ及び取り扱う意義

本時ではアジア州を学習対象とし、地球的課題を都市への人口集中に伴う「都市問題」とした。都市や人口に関する学習内容は、2年生の日本の地域的特色や地誌の学習、高等学校の地理総合や地理探究にも繰り返し登場することから、この後の接続や系統性も意識して、中学校1年生の世界の諸地域ではどこまで、どの程度扱えばよいか考えた。そして、中学1年生の段階では、世界各地で都市問題が発生している事をとらえるとともに、その背景となる地域的特色との関連を調べ考える学習であれば十分対応できると考え、単元設定をした。

都市問題は、SDGsの17の目標「11 住み続けられるまちづくりを」と特に関連が深く、アジア州では高度に発達した都市の課題（一極集中、過密など）、急速な経済発展や人口爆発に伴う都市の課題（大気汚染、スラム、インフラ整備の遅れなど）、また、都市に集まる外国人労働者や留学生との共生をめぐる課題など、多様性が見られる。これらを調べる際、情報を取捨選択したり関連付けたりする過程で、試行錯誤が生まれると考えた。課題の改善策について考える過程では、今とられている改善策を批判的に捉えることと同時に、「持続可能性」や「個人の尊重（人権、人間の安全保障）」など、主に公的的分野で取り扱う見方・考え方も適宜織り交ぜながらその在り方について考えさせ、創意工夫を引き出したい。先に述べたように、「個人の尊重（基本的人権の尊重）」や「持続可能性」の概念は、あらゆる分野・領域の創造的思考の土台となる概念であるが、社会科以外の学習で、その概念を深め豊かにしていく機会を作ることは容易ではない。「公民としての資質・能力」の育成を目標にする社会科ならではの見方・考え方を働かせる習慣を大切にしていきたい。

アジア州の学習までに、都市問題が生まれる背景や都市問題とその背景のつながりについて考察することができるようにしたり、「基本的人権の尊重」「持続可能性」などの見方・考え方を働かせることができるようにしたりするため、アジア州の前に北アメリカ州、アフリカ州、南アメリカ州の学習を行った（表1）。このような配列にすることにより、生徒にとって身近に感じる地域から徐々に遠い地域への学習を進めるとともに、概念の獲得や関係性把握もスムーズに行えるのではないかと考えた。

【表1】 世界の諸地域の単元構成

州	地球的課題	地球的課題の設定理由や地域的特色の概要 ◆社会科で育てる創造的思考の習慣に関わる指導内容
1. 北アメリカ州 ※教育実習生が担当	「(経済的な豊かさにひそむ) 大量生産・大量消費の課題」	・生徒に関わりの深いICT産業 ・豊富な資源、穀物、産業⇔エネルギーの大量消費、食品ロス、ゴミ処理の問題 ◆② 地域的特色を表す主題図の重ね合わせ→地図化
2. アフリカ州	「(経済的) 貧困」	・植民地支配、民族紛争、モノカルチャー経済（カカオやコーヒーの栽培、レアメタルの採掘） ⇔サブサハラの貧困 ※人口増加→都市の「スラム」の出現←貧困 ◆② 貧困と背景の因果関係を関係構造図にまとめる ◆① 貧困の連鎖を断てるものはないか、そのための方法は何かを考える。 ◆③ すでに活動している国際機関やNGO、企業の活動について知る
3. 南アメリカ州	「(経済発展のための) 開発と環境のバランス」	・鉄・アルミ・銅などの鉱産資源やコーヒー、大豆、サトウキビと私たちとの関係 ・工業化の成功⇔開発による森林伐採や都市問題 ◆③ 概念「持続可能な開発(社会)」と出会う ◆③ 概念「個人の尊重(基本的人権)」の視点から先住民や開発業者の人権について考える
4. アジア州	「(経済発展に伴う) 都市問題」	※下の「5. 単元の指導計画」を参照されたい。
アジア州のあとは、5. オセアニア州 に続いて 6. ヨーロッパ州の順で学習を進めていく計画となっている。		

(3) 生徒の実態

梅組の生徒は社会科の学習に対しておおむね前向きな姿勢で臨んでおり、自分の考えを発表できる生徒も複数いる。学年の初期の頃は授業に対して受け身な生徒が多かったものの、授業を重ねるうちに、徐々に積極的に取り組む生徒が増えたと感じている。個別の支援が必要と考えられる生徒に対しては、教師が近くに行きなるべく具体的な指示をしたり、声をかけたりするよう心掛けている。

3. 単元の目標

- (1) アジア州にみられる地球的課題（都市問題）の発生要因や、その背景にあるアジア州の地域的特色を理解するとともに、都市問題にかかわる資料を収集・活用して、その要因に関わる情報を見出し整理する技能を身につける。【知識・技能】
- (2) アジア州の各地でみられる都市問題の要因や影響および望ましい都市の在り方を、地域的特色と関連付けながら多面的・多角的に考察し、その結果を関連図やレポートに表現することができる。【思考・判断・表現】
- (3) 持続可能な社会の実現を視野に、アジア州の都市問題やその解決策について主体的に追究しようとする。【学びに向かう力／主体的に学習に取り組む態度】

4. 評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
規準	<ul style="list-style-type: none"> ・アジア州にみられる地球的課題（都市問題）の発生要因や、その背景にあるアジア州の地域的特色を理解している。 ・都市問題にかかわる資料を収集・活用して、その要因に関わる情報を見出し整理する技能を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アジア州の各地でみられる都市問題の要因や影響および望ましい都市の在り方を、地域的特色と関連付けながら多面的・多角的に考察し、その結果を関連図などに表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な社会の実現を視野に、アジア州の都市問題やその解決策を主体的に追究しようとしている。
方法	ワークシート、定期考査	ワークシート、レポート	ワークシート、レポート

5. 単元の指導計画（全8時間扱い）

時	主な学習活動および内容	評価の観点と位置づけ			◆研究主題に関わるポイント ・指導上の留意点
		知技	思判表	主態	
1	①世界の〔 〕割の人口は、どこに暮らしている？ <ul style="list-style-type: none"> ・アジア州の範囲や主な国を確認する ・州別人口の割合を確認する。 ・人口300万人以上の都市の分布を地図から読み取るとともに、大都市がある場所の共通性を地図帳の資料から考察し、都市の形成要因について仮説を立てる。 	●		●	<ul style="list-style-type: none"> ・地図帳、白地図を十分に活用する ◆地図帳の諸資料を自ら調べる ◆資料を重ね合わせて、必要な情報を取捨選択し関係づける

2 3	<p>②仮説を検証していこう</p> <p>○仮説の検証1. 多くの人口を養ってきた農業や自然環境の面から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東アジアから南アジアにみられる農業の傾向や自然環境の特徴について、作物と降水量や地形、季節風などの地域的特色を関連付けながら理解する。 <p>○仮説の検証2. 工業化や貿易の発展、経済成長の面から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国や東南アジア諸国の経済成長の様子、貿易品目の変化、港や道路の位置等を事例に、各地の工業化や貿易の進展と都市への人口集中を関連付けながら理解する。 ・これまでの学習を基に、都市への人口集中の要因について多面から考察し、関係分析図にまとめる。 ・人口の推移についてアフリカ州の学習を踏まえ予想し、実態を確認する。 	●	●	<ul style="list-style-type: none"> ・学習方法や進度は、生徒がたてた仮説の状況に合わせて適宜順番が前後する ◆分からないことを自ら調べて明らかにしようとする ◆情報を分析して論理的に関係づけ、まとめる <p>※アジアの経済成長についての関連提示資料 (https://www.imf.org/external/datamapper/NGDPD@WE0/OEMDC/ADVEC/WEOWORLD)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆情報を分析して論理的に関係づけ、まとめる ◆これからどうなるか予測する
4 本 時 5	<p>③メガシティの誕生と都市問題の発生(思いや問題に気付く)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで取り上げた大都市のうち、「メガシティ」とはどのような所かつかむ。 ・東京や他州のメガシティで見られた事例を参照しながら、メガシティの都市問題のイメージをつかむ。 ・アジアのメガシティで起こっている都市問題と、その発生原因は何かグループごとに調査し、関連付ける。 ・調査した内容を共有する。 	●	○	<ul style="list-style-type: none"> ・地図を用いて、メガシティの規模を、東京と比較する ・先に都市化が進んだ東京のごみ問題、過密などを事例として取り上げる ◆疑問をもつ⇒予測する ◆集めた情報を取捨選択したり、情報を分析したりして論理的に関係づけ、まとめる
6 8	<p>④メガシティの課題の改善策を考えよう(アイデアを思い描く)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のグループが調査した都市について、「人権」「持続可能な社会」の視点から、望ましい状態を思い描く。 ・すでに行われている問題への対策や取組にはどのようなものがあるか調べる。 <p>(アイデアを実行する)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べたこと(すでに行われている問題への対策や取組)を批判的に見て、様々な立場を想定し、なぜ対策をとっても問題 	●	●	<ul style="list-style-type: none"> ・3時間を通して使うワークシートを準備する ◆こうなるとよいのではないかと想像する ◆今あるものを批判的に見て、よりよいものを目指そうとする ◆構想しようとする ◆「個人の尊重」(様々な立場から考える)や「持続可能性」などの概念を常に意識する

<p>が解決されていなかったり、機能していなかったりするのかを考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ こうしたらよいのではないかという改善策を構想する 				
<p>(アイデアを振り返る)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 改善策をクラス内で発表・共有する。 ・ 改善策に対するコメントやアドバイスを基に、改善策や単元の学びを振り返る。 ・ これまでの活動をレポートにまとめる。 		○	○	◆自他の意見や今あるものを批判的に見て、よりよいものを目指そうとする

6. 本時の指導 「メガシティの誕生と都市問題の発生（思いや問題に気付く）」

(1) 本時の目標

- ①アジア州にみられる地球的課題（都市問題）の発生要因にかかわる資料を収集・活用して、その要因に関わる情報を見出し整理することができる【知識・技能】
 - ②アジア州の各地でみられる都市問題とその要因を、地域的特色と関連付けながら多面的・多角的に考察し、関連図に表現する【思考・判断・表現】
- ※ 目標①が中心、②は第4時ではその一部に差し掛かる程度で、主に第5時の目標となる。

(2) 本時の展開

	学習活動	教師の指導の手立て	・ 指導上の留意点 ◇資料等 ◆研究主題に関わるポイント
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまで学習してきた都市のうち、東京など人口1千万人を超える都市圏（メガシティ）がアジア州に多くあることに気付く ・ 同縮尺の地図で、東京大都市圏と各都市圏の広さを比較し、都市圏の規模をつかむ ・ 他州の既習事項を想起しながら、多くの人口が都市に集まることで発生する長所・短所を話し合い、都市問題とはどのようなことを指すのかつかむとともに、どのような都市問題が見られるか予測する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地図帳 P169②「世界の主な都市の人口」から、人口1千万人以上の都市を探し、地図に印をつけさせる ・ ペアで協力してワークさせる ・ ここでは「都市に人口が集中することによって発生する、社会や環境の問題」と定義する ・ 南アメリカ州のリオデジャネイロのスラムの課題などを想起させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 例えば「東京」といった場合、23区を指す場合もあれば、いわゆる「東京大都市圏」を指す場合もあることに触れる。 ◇資料 I ◆疑問をもつ⇒予測する
	<p>探究課題：アジア州のメガシティでは、人口の都市への集中に伴いどのような都市問題が発生しているのだろうか？</p>		

展 開 1	<ul style="list-style-type: none"> ・東京の事例を基に、都市問題のイメージをつかむ ・都市を分担するとともに、各都市の位置や人口などの基礎データを調べ、そこで起こっている都市問題を予想する ・各都市の都市問題を、最初は教科書や地図帳の資料から、次にインターネットの情報から見出す ・都市問題とその発生原因の関係性を調べ考察し、関連図にまとめ表現する 	<ul style="list-style-type: none"> ・動画や新聞記事を利用し、視覚的に分かりやすくイメージさせる ・ワークシートの使い方について説明する ・安易にネット上の情報に頼ることがないように助言する ・アフリカ州での学習を想起させ、自然環境や産業の様子、人口移動、経済格差など、様々な角度から考察するよう促す ・ワークシートに、各都市の様子をメモできる欄を用意しておく ・どのような都市問題が見られたか全体で確認させる 	<p>◇資料Ⅱ</p> <p>◆集めた情報を取捨選択したり、情報を分析したりして論理的に関係づけ、まとめる</p> <p>※これ以降の作業は第5時まで続く)</p>
展 開 2	<ul style="list-style-type: none"> ・他のグループが作成した関連図を、東京大都市圏や自分が調べた都市の都市問題・原因と類似している所、相違している所はどこか着目しながら共有する 	<ul style="list-style-type: none"> ・調査した都市問題の課題解決について考えていくことを伝え、これらの問題がどのような状態になればよいか考えてくるよう伝える 	<p>◆こうなるとよいのではないかと想像する</p>
終 末	<ul style="list-style-type: none"> ・第4時、第5時の学習を振り返るとともに、次時からの学習への見通しを持つ 	<ul style="list-style-type: none"> ・調査した都市問題の課題解決について考えていくことを伝え、これらの問題がどのような状態になればよいか考えてくるよう伝える 	<p>◆こうなるとよいのではないかと想像する</p>

◇授業で使用する予定の資料

- ・資料Ⅰ Thomas Brinkhoff: City Population, <https://www.citypopulation.de/en/world/agglomerations/>
- ・資料Ⅱ https://www2.nhk.or.jp/school/watch/clip/?das_id=D0005310319_00000#in=0&out=44
https://www2.nhk.or.jp/school/watch/clip/?das_id=D0005311065_00000#in=0&out=75
<https://www.yomiuri.co.jp/topics/20240523-0YT8T50002/>

(3) 参観の着眼点

次の2点を中心に、研究協議会でご意見を伺いたいと存じます。忌憚のないご意見をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

◆視点1：「創造的思考の習慣」として社会科部が考えた次の3点（特に①、②）を、生徒は授業を通して引き出すことができていたか。

- ①疑問をもったことについて予測したり、こうなるとよいのではないかと想像したり、分からないことを自ら調べて明らかにしようとする習慣

②集めた情報を取捨選択したり、情報を分析して論理的に関係づけたりまとめたり構想しようとする習慣

③自他の意見や今あるものを批判的に見て、よりよいものを目指そうとすること。その際、創造的思考の土台として「個人の尊重」（基本的人権の尊重）や「持続可能性」などの概念を常に意識する習慣

◆視点2：単元の目標及び授業で取扱った内容、方法（授業の構成や教材、教師の指導等）は、上記の習慣を引き出す観点から適切なものだったか。

※ご自身の勤務校で「創造的思考」の育てる授業を行うとしたら、どのようなものになるでしょうか。研究協議会では、研究テーマに関連しそうなご自身の実践などもご紹介いただけますと、参観者全員にとって学びが深まることと思います。